

加藤さん(酒田東高2)4位入賞

全国高校英語スピーチコンテスト

「話すことで、世界が広がった」

酒田東高2年加藤弘絵さん(17)が、全国高校英語スピーチコンテスト(全国英語教育研究団体連合会主催、2月5日)で4位入賞を果たした。「自閉スペクトラム症」「識字障がい」を抱えながらも英語を学んできた。学習の成果が美り、加藤さんは「困っている人

を助けられるよう、これからも英語を学びたい」と目を輝かせた。

加藤さんは本などを開く際に文字がうねって見え、言葉として認識するまでに時間がかかる。一方で比較的認識しやすい英語に興味を持ち、中学時代から英語

弁論大会に挑戦してきた。

今回は県中学校・高校英語弁論大会で連覇を果たし、東北大会で2位となり初めて全国大会に出場した。

当日はオンライン開催のため、酒田東高の教室からカメラ越しに熱い思いを伝えた。世界の高校生が防災

について意見を交わす『世界津波の日』2022高校生サミット(10月、新潟

市)へ参加したエピソードや、自らの個性などを紹介。文字が読めない人でもすぐに避難所や避難経路が分かるよう、災害時用ピクトグラムを作ることを提案し、

総括として世界に発信する「新潟フェニックス宣言」に組み込まれた経験を挙げて「自ら行動すること」の大切さを訴えた。

観客がいらない中で約5



全国高校英語スピーチコンテストで4位入賞を果たした加藤弘絵さん 酒田市産業振興まちづくりセンター

山形新聞(令和5年3月14日 火曜日)より転載

分間。「聞き手がどんな反応をしているのか分からず不安だった」と振り返った。それでも、結果発表で自分の名前が呼ばれた時は「今までで一番良いスピーチができたのでうれしかった」とはにかんだ。母吉絵さん(50)は「いろんな足かせがある中で、努力が報われる

チャレンジだった」とたたえた。大会を経て、英語検定準1級の取得を目指し勉強に励んでおり、ドイツ語にも関心を寄せている。「英語を通じていろんな人と会い、話すことで、世界が広がった」と充実した表情を見せた。(井上萌々子)